

INTERNATIONAL ERIC NEWSLETTER

No.8
SEPTEMBER 1991
エリック ニュースレター

国際理解教育・資料情報センター International Education Resource & Information Center

特集：「南」の仲間を身边に教える

事例 1：

写真は語る

- ねらい：
• 写真を注意深く観察する習慣を培う。
• 写真がどのように特定の視点や考えを表わす
のに利用されるかを考察する。
- 準備するもの：写真（ある国・地域の人々の様子がわかるものを複数）

展開：

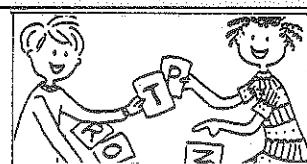
1. 「この中で自分が一番興味をそそられる写真を1枚選んでみよう。」
2. 各自分で選んだ写真について次の課題に取り組む。
 - a) 写真は何を表わしているか。写真から読みとれる
ことをすべて書き出しなさい。
 - b) 写真についてきいてみたい質問を書き並べなさい。
3. 同じ写真を選んだものの同士グループをつくり、「なぜその写真を選んだか」「どんなことを写真から読みとったか」「どんな質問をしたいか」意見を交換する。
4. それぞれの写真について、どこの国（地域）か、どんな職業の人か、どんな暮らしをしているか、などについて解説を聞く。
5. 次の質問に各自で答える。
 - a) 写真について読みとったことは、正しかったか？

- b) 2で考えた質問のうち答がわかったのはいくつ
か？答えるわからない質問は、どのように調べられるか？
- c) 写真は、そこに写っている人々の暮らしの一部分
を表わしているにすぎない。それはどうしてか？
6. 次の質問について、まずグループ（4～6人）で話
し合い、その後全体で発表する。
 - a) 全部の写真から、この国（地域）についてどんな
ことがわかるか。
 - b) 写真からわからないことはどんなことか。
7. 「写真の中の一人に会って、自分たちの住んでいる
地域の人々の写真を見せてあげるとしよう。」
 - a) どんな写真を選ぶか。その理由は？
写真の内容を作文で説明するか、絵を描くか、雑
誌の写真を切り抜くか、の方法で表わしなさい。
 - b) 学校周辺地域の写真を撮って、学校の訪問者や転
入生に見せられるようなアルバムを作りなさい。
 - c) この国（地域）の学校とアルバム交換をしよう。

目次

〈特集〉「南」の仲間を身边に教える

事例1：写真は語る	1
事例2：みんなで協力すればできる	2
事例3：もしも教室が世界なら…	4
事例4：夢の南の島で…	5
事例5：第三世界の住宅事情	6
事例6：漁民、農民、難民、山岳民族の声を聞く	8
事例7：いちばん大切にしたいことは？	8
事例8：エネルギー・バレスという名のレストラン 情報コーナー	10 12



応用：新聞のアジアに関する写真や見出しの切り抜きやアジアの旅行パンフレットを集め。観光客用に作られたアジアのイメージと商業用ではない実際のアジアのイメージを比較する。次のような表にまとめる。

	ニュースの中 のアジア	観光客への宣伝 の中のアジア
紹介されている国		
紹介されている人々		
見出しに使われている言葉を3～4つ		

○研修会の参加者からひとこと

「『単純な一枚の写真から出発する』というヒントを得た。視聴覚を使い過ぎることは、かえってマイナスになる。画面で見て、考えないでわかった気になることがおそろしい。見せすぎないで（一枚の写真だけで）、ことばから想像する力をつけることが大切で、それが将来の行動の力になるのでは、と思う。」（中学校教諭）

「写真が訴える力、そこから生徒が想像し考えを発展させたり、具体的活動を行うということになるほどと思った。単に、写真を見せるだけでなく、そこから何をつかむかを具体的な過程にそって指導できるという点が勉強になった。」（高校教諭）

出典：ASIA IN VIEW, Deborah Patterson & Community Education Department, World Vision, 1988



事例 2：

みんなで協力すればできる

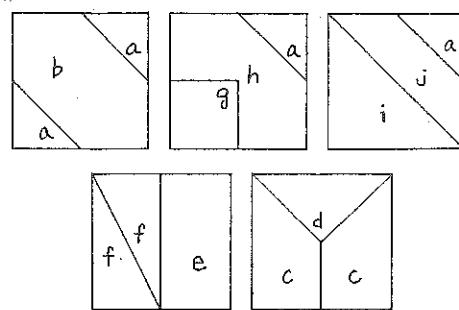
- ねらい：
 - ・協力して課題に取り組み、他の人の力になろうとする姿勢を培う。
 - ・協力することの重要性を知る。
 - ・協力と競争を対比して考える比較思考力をのばす。
 - ・自己の行為と感情を省み、分析・考察する習慣をつける。
 - ・他の人の気持ちを思いやる姿勢を培う。

準備するもの：パズルの紙片を入れた封筒を各グループに5枚（A～E）、ルールの説明書

〈パズルのセット〉

1. 15センチ四方の厚紙を5枚用意し、下図のように5通りに切り分ける。できた紙片にそれぞれ記号（a～j）を鉛筆で薄く書き入れる。
 2. 記号をつけた紙片を5枚の封筒（A～E）に次のような組み合わせで入れておく。
- | |
|------------------|
| 封筒A — i, h, e |
| 封筒B — a, a, a, c |
| 封筒C — a, j |
| 封筒D — d, j |
| 封筒E — g, b, f, c |
3. 紙片に書き込んでおいた記号を消し、かわりにそれぞれの封筒の記号を各紙片に書き込んでおく（終わってからもとの封筒に戻して、再度使うことができる）。
- ※7.5センチ四方の四角形ができる組み合わせはいくつかあるが、15センチ四方ができる組み合わせは一通りだけである。

(図)





〈ルールの説明書〉

ゲームの目的：同じ大きさの四角形をグループで5つ作る。
 ルール：①話したり笑ったり目で合図をしたりなど、他の人に意志を伝えるようなことをしてはいけない ②他の人の持っている紙片をとったり、もらえるように合図したりしてはいけない ③自分のもっている紙片は同じグループの他の人にあげてもよい。

展開：

1. 「『協力』ってどんな意味か知っているかな？」
 協力に必要なことを黒板に箇条書きする。
 例：全員が問題について理解している、各自が何らかの形で役に立てる信じている、自分のことだけでなく他の人のことを考える、など。
2. 5人のグループに分かれる。余った人は、オブザーバーとして各グループのゲームの進行の仕方ややりとりで気づいたことなどを書きとめておく係になる。
3. 「このパズルは、グループ全員が協力しないと完成しないよ。」
 ルールの説明書を各グループに配り、全員が理解したことを確認する。
4. 各グループに封筒5枚を配り、各自に封筒1枚がゆきわたるようにする。「ゲーム開始。」
5. 「ゲーム終了。」
 1で話し合った「協力」についてもう一度考えてるために次のことを話し合う。
 - ・ゲーム中、どんなことを感じたか。難しかったことは何か。どのように解決したか。
 - ・自分には解決方法がわかっているのに、他の人が気づかないでいるとき、どんな気持ちがしたか。自分がその人の立場であればどう感じただろうか。
 - ・自分の四角形を作り終わってしまった人が、他の人がまだできていないのは、自分の四角形の組み合わせに問題があるからかもしれないのに、確かめようともしないで「もう私／僕は終わったから…」という顔をして座っている時にどう感じたか。
 - ・せっかく四角形ができたのに、他の人に紙片をわけてあげるためにもう一度壊して最初からやり直さな

ければならないことに気づいたときどう感じたか。

- ・ゲームを通して、自分自身に関して何か新しい発見があったか。それはどんなことか。
- ・他の人の紙片を取って、自分で使ったり別の人에게ようしたりする人がいなかったか。グループはどうのに対応をしたか。その理由は？（こうした行為はルール違反であるが、教師は、グループの判断に任せても、「他の人にあげるだけですよ、他の人から取ってはいけません」と注意してもよい。）
- 6. このゲームの基である「協力の原理」を、一般に多くのゲームの基である「競争の原理」と比較する。比較しやすいように、「競争の原理」に基づくルールで、ゲームをやり直してみてもよい（例えば、一番早く四角形を完成させた人が勝ち、必要ならば他の人の紙片を取ってもよい…など）。
- 7. 「協力と競争の違い」「協力について学んだこと」などについて作文（原稿用紙1～2枚）する。

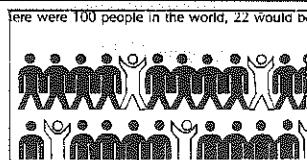
応用：高学年の場合は、次のような質問をする。

- ・ゲーム中の態度や行為を、自分たちの生活や生き方と関連づけられるか？
- ・このゲームと現実社会のあり方で、つながりがないか？（例：国家間の貿易、地球環境問題のとりくみなど）

【現場から一言】川村先生 小学校2年生

「『協力する』を『力を合わせる』として取り組んだ。みんな『〇〇がほしい、〇〇が足りない』というばかりで、『あげる』ということが頭にないんですね。『あげるのはいいのよ』と説明しても、言葉で理解できても、行為として表わすことはむずかしいのだと改めて気づかされた。低学年には、図形より、人の顔や動物などの絵や写真を利用してパズルにするといいのでは。」

出典：FOOD FIRST CURRICULUM, Laurie Rubin, Institute for Food and Development Policy, 1984

**事例 3 :****もしも教室が世界なら…**

ねらい：・自分の住んでいる地域と世界の他の地域の人々の生活の共通点と相違点を理解する。

- ・資源の利用と分配における地球規模の不平等を知る。
- ・統計を目的に合わせて活用できるようになる。

時間：30分～1時間

準備するもの：黒板かオーバーヘッドプロジェクター(OHP)、模造紙、プリント

準備：

1. プリントの表を参照して、各学級の人数に合わせた統計表を換算して作成する。
2. 授業前に黒板かOHPに、1の表を書き写しておく。但し、数字は書かないでおく。

展開：

〈学級全体ですすめるとき〉

1. 「もしわしたちの学級が世界だとしたら、表の各項目(プリント参照)は、それぞれ何人ぐらいになるかな。字が読める人は何人だろう。大学まで行く人は?」
2. 生徒の推測した数字を表に書きこむ。
3. 統計をもとにした実際の世界の割合(%)を各項目に書き込む。
4. 3の割合に基づいて、学級人数を世界全体として換算し、結果を書き入れる。

「字が読めるのは〇人です。〇人の人立ってみよう。」生徒の推測した数字と実際の割合とを比べる。

5. 統計の数の意味を次の質問にそって話し合う。
 - ・もし自分たちの学級で8人しか字を読めないとしたら、どんな影響がでてくるだろう？
 - ・農地を管理したり所有したりするのは、どんな意味をもっているだろう？
 - ・どの統計が一番意外だったか？
 - ・統計を実際に自分たちの学級にあてはめてみてどん

な気持ちがしたか？ どんなことに気づいたか？

- ・もし、自分たちの学級が本当に世界を表わしているとしたらどんな気持ちがするだろうか？
- 例えば、他の子の暮らしが自分よりよかったり悪かったりしたら、どんな気持ちがするだろう？
- ・こんなに多くの人が、貧しくてお腹を空かせているのはどうしてだろう？

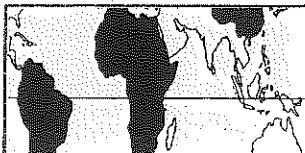
〈グループ活動を中心ですすめるとき〉

1. 5つのグループに分けて、表の各項目(プリント参照)を一つずつ書いたカードを配る(各グループに2～3項目ずつ)。
2. 「自分たちの学級が世界だとしたら、カードに書かれた項目の人は何人だろうか。各グループで協力して推測してみよう。」結果を紙に書く。
3. 学級全体で、各グループの結果を発表する。出された数字は、黒板かOHPに表を用意し書き込む。異なる意見が出ればその数字を追加してもよい。
4. 統計に基づく実際の世界の割合を書き込み、これとともに「教室を世界」とした場合の生徒数を換算する。
5. 〈学級全体ですすめるとき〉と同様の質問をグループで話し合う。

応用：世界の統計を割合(%)で表わした数字を、「もし世界が100人だったら」と言い換えて説明すると、理解が深まりやすい。

題材について：

世界全体の統計を自分たちの学級の人数に換算して考えることにより、世界の人々のおかれた状況を考察する。億とか兆といった単位は一般に想像がつきにくいが、教室を「世界の縮図」と想定して利用すると理解が深まりやすい。世界全体の統計を自分たちの所属する集団に当てはめてみることで、はじめて25%とか50%といった数字の意味に気がつき驚く。世界からの視点で自分たちの生活を見直すことができる。



プリント

地球村の統計

	生徒の 推測値	30人学級の 場合の人数	世界の 統計値(%)
アジアの住人	17	58	
アフリカの住人	3	11	
中南米の住人	3	8	
北米の住人	2	6	
オセアニアの住人	0	1	
ヨーロッパとソ連の住人	5	16	
日本人	1	2	
中国人	7	22	
(中華人民共和国国民のみ)			
74歳まで生きられる人	2	6	
50歳まで生きられない人	9	29	
一人あたり国民総生産が 8.2千円以下の国に住む人	17	55	
都市に住む人	11	37	
栄養失調で発育不良な人	2	7	
字が読める人	9	30	
学校へ行ったことがない人	6	20	
大学まで進学する人	0	1	
安全で安定した住居に 住んでいる人	6	20	
清潔な水を使える人	15	50	
農地の80%を管理している	1	3	



出典：EXPLODING THE HUNGER MYTHS, Sonja Williams, Food First/Institute for Food and Development Policy, 1987

事例 4：

夢の南の島で…あったらいいもの、
絶対いるもの

ねらい：・「必要なもの」と「ほしいもの」との違いを考察する。

- ・生きるために最低限必要なものは何か、検討する。
- ・すべての人にとって最低限必要なものは共通していることを理解する。

準備するもの：南国の島の風景を表わした写真か絵（大判であれば学級全体で使うために1枚、小版であれば2人に1枚）

展開：

1. 2人1組になる。
2. 「写真（絵）のような島へ行って、2～3年間暮らすとしよう。気候は穏やかで快適。何を持って行くかな。隣の人と話し合いながら、持つて行きたいものを10選んでリストを作つてみよう。」
3. 「できたリストから『ほしいもの』と『必要なもの』に分けてみよう。『ほしいもの』はあったらいいもの、『必要なもの』はそれなしでは生きられないもの。必ず2人で話し合つて合意をみた結果でなくてはならないことを確認する。」
4. グループ（6～8人）あるいは全体で、できたリストを見せ合う。
5. 気づいたことを話し合う。
「だれもが必要だと感じているものがあったかな？」

○研修会の参加者からひとこと

「日本という文明社会に生きる者の発想だなとつくづく感じた。物があふれる社会で普段は気づかないけど、よく考えたらいらない物がたくさんあるんですね。」「自分の生活をかなりしめられるんだなという自信がついた。今日、帰ったら早速実行します。」（談）

出典：FOOD MATTERS, Development Education Centre 1987



事例 5 :

第三世界の住宅事情

- ねらい：
 - ・第三世界の多くが共通した住宅事情にあることを知る。
 - ・第三世界の居住・都市問題の動向に着目し、その要因を考察する。
 - ・農村と都市との関係を調べる。
 - ・居住・都市問題の解決に向けて理解を深める。

準備するもの：画用紙（B4かA3）、プリント（人数分）、写真

展開：

1. 一人に一枚画用紙を配る。
「スラムの様子がわかるような絵を描いてください。絵の中には、特徴について説明を入れてもいいよ。」
(学年によっては、「スラム」という言葉の意味を確認したり、スライドや写真などの資料を使った導入を工夫するとよい。)
2. グループで、あるいは全体で、各自の絵を見せ合い比較する。
3. 「みんなが共通してスラムの特徴としてあげているものは何かな？ 気がついたものをすべて書き出してリストにしよう。」
4. プリント表1を見て、各都市の位置を世界地図で確認する。各都市名の横にスラム住民の割合を書き込む。
5. プリント表2を参照してグラフを二つ書く。一方は各国の都市と農村地域における電気の普及率を表わすグラフ、もう一方は水道の普及率を表わすグラフ。
6. グラフを見ながら、次の質問に答える。
 - ・第三世界の国々に共通する都市と農村の住宅事情の違いは何か？
 - ・こうした住宅事情の違いが、人々の農村から都会に移動する理由であると説明できるか？
7. 中央に線を引き、二つに分けた表を作り、左上に「都市に移る理由」、右上に「農村を出る理由」と書く。
プリントの図1を参照して、「都市に移る理由」を5つ表に書く。次に「農村を出る理由」を5つ書く。

8. 全員に写真を見せる。

「この写真是、後方に見える高層ビルの建築に携わる労働者の住いを写したもので、インドのポンペイのスラム地区にあります。」

次の設問に答える。

- ・なぜこの人はポンペイに住むことにしたんだろう？
- ・彼の住いの様子を説明しなさい。
- ・この家をつくるのに必要な資材はどこで手に入れたんだろう？
- ・この家は住むのにふさわしいといえるだろうか？
- ・この写真を見て気づいたことを述べなさい。

9. プリントのまんが「都市とスラム」を読んで、次の質問に答えなさい。

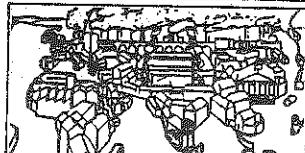
- ・なぜ都市はスラムに「帰れ！」と言っているか。
- ・なぜスラムの住民は貧しくて手に職をもたないか。
- ・なぜ彼らの家はうらぶれているんだろう。
- ・なぜスラムの住民はいつも明日のことを心配しているんだろう。
- ・6番目のまんが見て、スラムの住人が抱えている問題をあげなさい。もしあなたが都市計画家なら、どのようなサービスを提供するか。

題材について：

第三世界と呼ばれる貧しい国々においては、多くの人々が農村地域から都市へ移住している。その数は膨大で、都市は慢性的な住宅不足や就職難に陥り、多くの人が都市周辺のスラムなど、非常に生活環境の悪いところに住まざるをえないという状況を生んでいる。スラムの住民の多くは、仕事が見つからず、住む家がなかったり、あっても一時しのぎにすぎなかつたりという生活を強いられている。第三世界の多くの都市で、人口の半分以上がこうした状態におかれている。

人々が農村地域を離れる理由はさまざまである。貧窮生活や戦禍から逃れるためなど、農村地域からやむをえず追い出される場合がある一方、都会の生活に魅せられて農村を去る場合もある。こうした複数の理由や要因により、第三世界の都市が急成長を続ける中、スラムの人口が急増し、住宅問題がますます深刻になっている。

出典：NEW WAVE GEOGRAPHY 1, Geography Teachers' Association of Victoria, The Jacaranda Press, 1988



プリント――

表1 界隈の生活

都市の人口に対するスラム地区に住んでいる人口の割合

イバダン	75%	リマ	40%
カルカッタ	67%	マニラ	35%
ボゴタ	60%	リオデジャネイロ	30%
キンシャサ	60%	ジャカルタ	26%
ポンペイ	45%	ソウル	24%
カラカス	42%	カラチ	23%

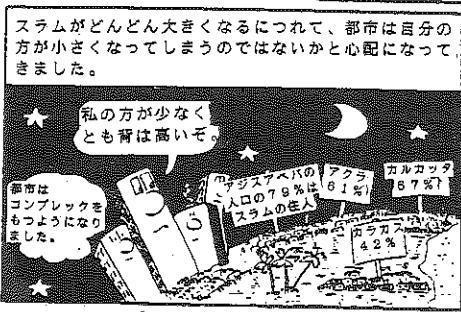
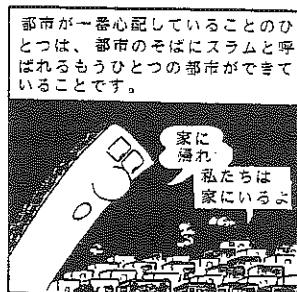
(資料: TEACHERFORONEWORLD-SHELTER, Melbourne: CommunityAidAbroad, 1987)

表2 都市と農村の住宅事情

国名	電気を有する住宅の割合		水道を有する住宅の割合	
	都市	農村	都市	農村
ブラジル (1980)	88.5	75.8	3.2	38.3
	20.6	3.2		
パキスタン (1980)	71.0	2.5	2.5	4.4
	14.7	2.5		
スリランカ (1981)	45.9	8.0	24.4	4.4
	45.9	8.0		
キューバ (1981)	98.6	45.7	69.6	13.0
	69.6	13.0		

(資料: UNITEDNATIONINTERNATIONALYEARBOOK 1983/84)

都市とスラム



Drawings by Doug Brunner from a cartoon story "A tale of two cities". UNICEF's Universal Children's Day Kit, 1982

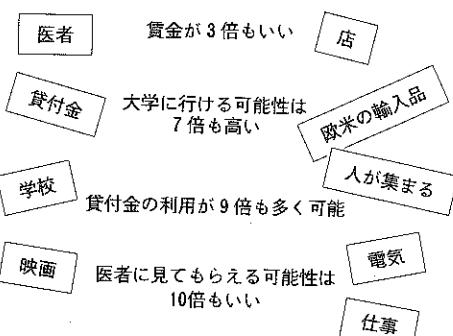
【現場から一言】茂泉先生、高校地理

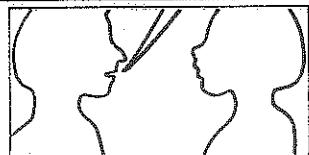
第三世界の都市への人口集中は現在に始まったのではないが、最近その傾向が強くなっていると報告されている。その主な要因は経済的なものが圧倒的だが、民族対立や内戦などによるものが多くなっている。

もちろん日本にも都市への人口集中現象は存在し、そのため農村地域では過疎、都市では過密の問題が発生している。しかし、第三世界では、都市に人々を受け入れる基盤が整っていないことが、多くの諸問題を発生させていると言われる。こうした諸問題を事例をもって考察することは極めて有効である。

高校社会科での人口問題や都市問題は、「現代社会」や「地理」で扱うが、これまで以上に世界各国で起きている問題を、具体的な例をとりあげて直視する時期にきている。このことを踏まえた上で、今後どうアプローチしていくかを生徒ひとりひとりに考察させることができれば成果は大きい。

図1 人々はなぜ都市に行くの?



**事例 6 :**

漁民、農民、難民、 山岳民族の声を聞く

ねらい：

- ・国際協力のあり方を主体的に考える。
- ・相手の立場に立って考える姿勢を培う。

展開：

1. 5つのグループ（4～6人）に分け、それぞれ漁村、農村、難民キャンプ、スラム、山岳民族部落とする。
「各グループで自分たちがどんな環境に住んでいるか具体的に考えてみよう。特に、教育、水、衛生、住居、仕事がどんな状況か、話し合って箇条書きにしよう。」
(時間ががあれば、図書館を利用したり、課題学習として事前に調べておくように指示する。)
2. 全体で、各グループで話し合ったことを発表する。
言葉だけでなく、絵を書いたり新聞や雑誌などから集めた写真などを使って説明してもよい。
3. 「もし、君たちのところに日本から援助をしたいという調査団（政府でも市民団体でもよい）が来たら、君たちは何を望むだろう？ 書き並べてみよう。」
(父、母、20代の青年、こども、おじいさん、おばあさんなど様々な立場から考えてみるよう指導する。)

[現場から一言] 菅野先生、高校政治・経済

研修会で体験した上の事例をアパルトヘイトの授業で実践してみた。導入にアパルトヘイトを特集したVTRを使い、授業でアパルトヘイト政策とその歴史、国際社会との関係、南アの教育事情などを学んだ後、「もし私が南アの高校生なら」という設定で作業をした。生徒は白人、黒人、カラード、アジア・インド系のグループに分かれて、ディスカッションをしながら、それぞれの立場から衣食住、職業、教育などの生活状況を把握すると同時に、今抱えている問題、自分の国について日本人はどう紹介するか、黒人指導者であるネルソン・マンデラはどんな人か、といった質問にも取り組んだ。

事例 7 :

いちばん大切にしたいことは？

ねらい：

- ・「大切にしたいこと」を個人・国家・国際社会の3つのレベルで考える。
- ・自分の考えを他の人に伝え、相手の同意を得られるように説明できる力を伸ばす。
- ・他の人の意見を聞き、異なる視点のあることを理解する。
- ・個人・国家・国際社会の各レベルにおける優先順位は必ずしも一致しないことに気づく。

準備するもの：プリント（人数分）

展開：

1. <個人で> 各自でプリントに取り組む。
「1～10の文から9つ選んで、『ダイヤモンド』とよばれる表に合うように、1番から5番まで序列化して番号を書き込みます。」
2. <グループで> 4～6人のグループに分かれる。
各自の完成したプリントを見せ合う。
「各自の意見をもとに話し合って、グループを代表する『ダイヤモンド』をそれぞれ3つ作り、理由づけを考えよう。」
3. <全体で> 各グループの代表者は、自分たちの「ダイヤモンド」を発表し、序列化の理由を説明する。
4. 次の点を話し合う（各自に書いてもらってもよい）。
 - ・自分の「ダイヤモンド」と他の人の「ダイヤモンド」を比較してどんな気持ちがしたか。
 - ・自分のつくった3つの「ダイヤモンド」で矛盾した点がないか？
 - ・「国際化」「国際理解」「国際協力」などと関連づけて考えると、どんなことに気づくか？

題材について：

国際的な相互依存関係の緊密化に伴う国際社会の変化や課題を自分自身と結びつけて考えることのできる教材である。「大切にしたいこと」を個人、国家、国際社会の各レベルで序列化することにより、様々な価値観が存



在すること、同時に、こうした価値観が同じレベルで、あるいは異なるレベルで対立する場合もあることに気づく。また、自分と他の人の価値観が必ずしも一致しないことに気づくことで、価値観の多様性についての理解を深める。国際化の進展に伴い価値観の対立が増加、複雑化する中で、人類の課題を解決し、よりよい未来を創造するには、国際的な協力が不可欠であることを理解する。

応用：「ダイヤモンド」に各文章の番号を書き入れるかわりに、それぞれの文章をカードに書いて、序列化して「ダイヤモンド」に並べてもよい。また、文章のかわり

に写真や絵を使うこともできる。こうすることによって、話し合いがより活発になる。

○授業を受けた高校生からひとこと

「自分と他の人の考えがこんなにも違うとは思ってもみなかった。こういうことは、友だちとも話したことがないし、自分自身でも考えたことがなかったから、とてもよい機会だった。グループで話し合いが盛り上がって、おもしろかった。もっと時間をかけて話してみたいな。」

出典：INTERCOM #73, Jayne Millar, Center for War/Peace Studies, 1973

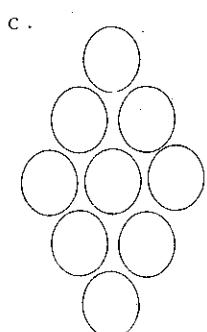
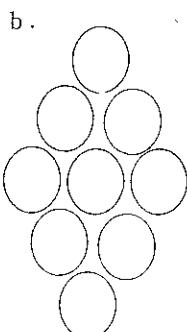
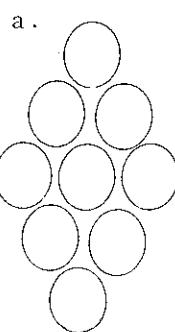
プリント

いちばん大切にしたいことは…？

下の3つのレベルで、それぞれ1～10の文のうち大切にしたいことを9つ選んで、1番から5番までに序列化し、番号をダイヤモンドに書き入れなさい。

a. 個人レベル

- 1 仕事に満足していること
- 2 健康であること
- 3 お金をたくさん持っていること
- 4 両親とよい関係にあること
- 5 希望や必要に応じた教育を受けられること
- 6 社会的に高い地位にあること
- 7 物質的に（住居も含めて）豊かなこと
- 8 余暇がたくさんあること
- 9 環境が汚染されていないこと
- 10 子供に恵まれた幸せな結婚生活を送ること

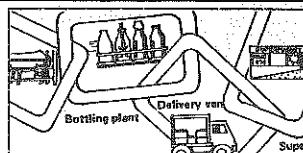


b. 国家レベル

- 1 強力な防衛軍備のあること
- 2 環境が汚染されていないこと
- 3 国内の貧困をなくすこと
- 4 大学までの教育が無料で受けられること
- 5 医療費が安いこと
- 6 犯罪をなくすこと
- 7 公共交通を便利にすること
- 8 宇宙開発計画を進めること
- 9 すべての人に雇用の機会があり、収入が保証されていること
- 10 人種差別など、あらゆる差別をなくすこと

c. 国際社会レベル

- 1 世界人口の増加を緩和、ないし安定させること
- 2 国家間で戦争のおこる危険を縮小すること
- 3 世界中の空気や水を汚染から防ぐこと
- 4 発展途上国の飢餓や飢餓を減少させること
- 5 世界の生活水準を向上させること
- 6 だれもが高等教育を受けられるようにすること
- 7 核兵器を削減すること
- 8 地球規模の問題（例えば、麻薬取引きや航空機乗り取りなど）を解決するために協力すること
- 9 世界の資源や海洋がもっと公平に開発、利用されること
- 10 海洋および海洋資源の利用について協定を結ぶこと

**実例 ⑧ :****エネルギー・パレスという名の
レストラン〈実践報告〉**

報告者 八木佳子先生 東京都品川区立鈴ヶ森小学校

(1) 地球的規模の課題と取り組む教材として

現在、地球上には様々な課題（南北格差、食料、人口、環境破壊、公害など）が山積みされている。それらの現状を理解し解決に向けて取り組む学習を教育課程に位置づけていくことがあります必要になってきている。現状では、5・6年の社会科で明確に位置づけがなされてきている。特に、平成4年からの改訂教科書の6年の下巻で様々な課題について学ぶ。しかし、楽しみながら学べる教材の開発は、まだまだとても十分とはいえない。そこで、FOOD FIRST CURRICULUMにヒントを得てエネルギー問題に焦点をあて、わかりやすく楽しい授業を目指して実践してみた。

(2) 指導の過程**①ねらい**

- ・便利な生活を維持するために膨大なエネルギーが必要であることを理解する。
- ・エネルギー消費の節約に自分たちも協力できることを知る。

②展開

1. トマトを原料として、生のトマト、ジュース、ホールの缶詰、ピューレ、ケチャップの各100gあたりの価格を知り、加工に要するエネルギーが多い方が価格が上がることに気づく。すべて実物を提示し、「トマトの表」を参照する。
2. スナック菓子を例にとり、自分たちの手元に届くまでにどんなエネルギーが必要かを考え、発表する。発表をもとに黒板にカードを使ってまとめる。
3. 「エネルギー・パレス（レストランの名）」の案内（プリント）を読む。
4. メニューに従って、自分で考えオーダーをつくる。
5. オーダーを発表して、なぜそのようにしたか理由も発表する。

6. 授業の感想を発表する。**③評価**

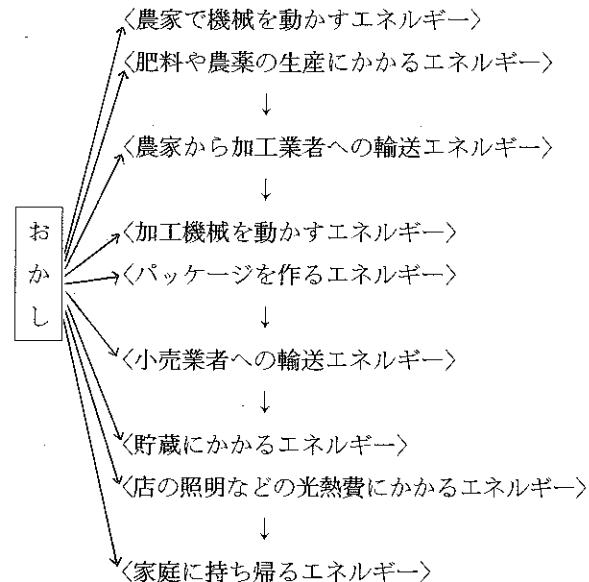
1. 便利な生活を維持するために膨大なエネルギーが必要であることがわかったか。
2. エネルギー消費の節約に自分たちも協力できることに気づいたか。

トマトの表

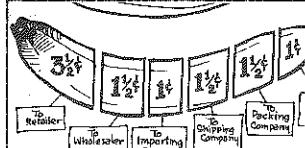
生のトマト	100 gあたり	39.6円
トマトジュース	〃	44
ホールトマトの缶詰	〃	69.5
ピューレ	〃	75
ケチャップ300g入り	〃	80
180g入り	〃	104

黒板のまとめ

(まとまりごとにカードの色をかえる。)

**MENU**

模造紙に絵をかいて表示



プリント

「エネルギー・パレス」という名のレストラン

みんなは特別なレストランに昼食に招待されました。「エネルギー・パレス」という名前のレストランで、変わっているところは、その価格が1つ1つの食品それぞれを作ることに使われたエネルギーに対応して決められていることです。

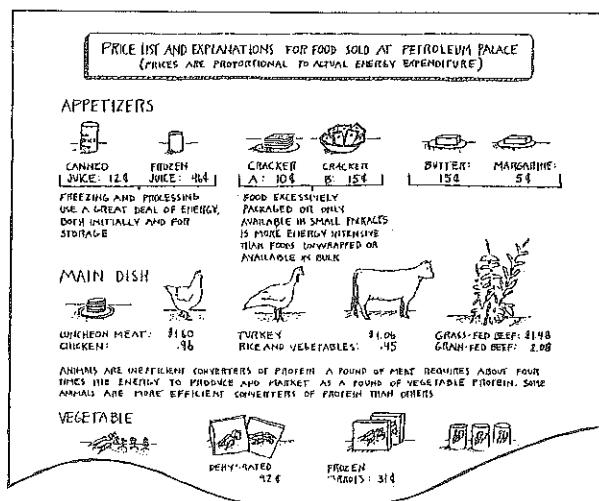
そのオーナーは、熱心な環境保護論者（環境を守ろうとする人）で、この国のエネルギー消費を減らさなければ心配している人です。

そこで自分たちにもできることとして、エネルギー消費の大きい食品はべらぼうに高く、エネルギー消費の少ない食品は安くすることにしました。食品にかかるエネルギーのことを理解してもらいたくて、ある食品は他の食品に比べて、なぜ、エネルギー的に格安なのかを説明できる人には割引も実施しています。

今から、そのレストランに行くことはできませんが、そこのメニューがありますからお渡しします。

そこで注文したいものを選んで下さい。選ぶときには、自分の好きなものや栄養ではなく、エネルギー消費のことを考えて選んで下さい。

（右のメニューを選んだ理由）



出典：FOOD FIRST CURRICULUM, Laurie Rubin, Institute for Food and Development Policy, 1984

MENU (メニュー)

前菜… 2つのうちから1つずつ選びます。 () ()

○ a 新鮮な絞りたてジュース(100円) b 冷凍ジュース(400円)

○ c クラッカー(包装なし、店でまとめ買いできる)(100円)

d クラッカー(個別包装あり、箱詰め)(150円)

○ e バター(150円)、f マーガリン(50円)

メインディッシュ…品切れもあるので2つ選んで下さい。

() ()

A. ステーキ(1800円) B. チキン(1000円)

C. 米と野菜(500円) D. ビーフ(牛肉)(1500円)

E. いわし(500円) F. ぶり(養殖)(400円)

野菜… 2つのうちから1つ選びます。 ()

A. トマトと胡瓜のサラダ(畑で作ったもの)(100円)

B. トマトと胡瓜のサラダ(ハウス栽培)(500円)

飲み物… 2つ選んで下さい。 () ()

A. ソフトドリンク(アルミ缶入り)(500円)

B. ソフトドリンク(リサイクルできるビン入り)(300円)

C. ミルク(紙パック入り)(350円)

D. ジュース(リサイクルできるビン入り)(100円)

デザート… 1つ選びます。 ()

A. りんご(レストランの庭でなったもの)(30円)

B. りんご(店で買ったもの)(200円)

C. アイスクリーム(600円)

合計 () 割り引き ()

合計 ()

[現場から一言] 鈴木先生、中学校社会

あらゆるものがあふれる物質文明の中で育つ現代日本の子どもたちに、エネルギー問題を考えさせるために、食物という最も身近なものから入っていく手法は、導入としてとても使いやすい。例えば、何気なく飲んでいる自動販売機の冷えたオレンジジュースが、ただのオレンジを絞ったジュースとは異なり、自分の手元に渡るまでにいかに多くのエネルギーを消費しているかを実感として理解させられる。給食の献立からエネルギー量を計算させても面白いだろう。食料問題が発展途上国での飢餓の問題ばかりクローズアップされがちな中で、先進国におけるエネルギー問題でもあることを、先進国に生きる子どもたちに理解させることは大変重要な視点だと思う。



情報コーナー

○こんなことしています

♪国際理解教育を道徳、H.R.、学活、英語で実践

「…未開発というか未踏というか、自由にやれることと、生徒が何よりいつもと違って真剣にのめり込むというのが面白い…」

「今年の夏休み、新英研の青森全国大会で国際理解教育についてレポートを発表しました。参加者に生徒になって実際にやってもらったところ、傍観者の立場からだんだん真剣になっていって快感でした」(その時のレポートをERICにいただきました。「英語圏の人々」「異文化理解」「第三世界」「反戦・平和」「人権」の領域にわたる国際理解カリキュラム表に、10以上の事例が生徒用プリントを含めて掲載されています。お読みになりたい方はご連絡下さい。)

発信：畠山広子 矢巾町立矢巾中学校
〒028-36岩手県紫波郡矢巾町南矢幅5-175

♪人権教育の教材と授業を研究

大阪市教育センターで、人権教育の読本『にんげん』の活用についての研究に携わっています。教室で授業実践される教員の参考になればと通信も発行しています。「…人権のための学力を育てるキー・ワードは、言語活動の教育を重視、とくに『聞く』『話す』領域を重視すること…」(通信から) ERICニュースレターも、コピーして実践の場の教員に流しています。

発信：稻垣 有一 大阪市教育センター
〒552大阪市港区弁天1-1-6

○お知らせします

グローバルセミナー・滋賀91

英語教育講演会 11月30日

開発教育セミナー11月16日、12月14日

詳細は下記にお問い合わせ下さい。

発信：上松裕明 近江八幡YMCA
TEL(0748) 33-2420

○資料のご寄贈ありがとうございました

たくさんの資料をご寄贈いただきましたので、ここにご紹介しあれを申し上げます。

『異文化を理解し国際協力のできる生徒の育成：帰国子女が適応しやすい校風の確立』(東京都狛江市立狛江第4中学校)

『岩美町教育研究会国際理解教育部会：各学校の研究と実践：平成2年度鳥取県海外子女研究協議会資料』

『私たちの岩美町〈小学校学習マップ・岩美町コースマップ・教材教具の紹介〉』
岩美理科教育サークル

『国際理解教育の実践：最終年次』東京都立東高等学校

『見つめよう ぼくらの時代こんにちは』
秋田県教育庁義務教育課編集、秋田県教育委員会発行

『世界に目を向け広がる教育－研究資料』
埼玉県大宮市教育委員会、大宮南小学校

『国際理解教育の手引』青森教育委員会
『千葉県における国際理解教育の推進に関する研究』千葉県総合教育センター

『千代田区国際理解教育推進協議会研究集録』千代田区教育委員会

『児童・生徒の国際性の育成に関する研究』川崎市総合教育センター

『国際的視野を育てるための教育に関する研究』香川県教育センター

『国際理解教育の手引き』札幌市教育委員会

『国際理解教育をすすめるための教育課程の開発』『国際理解科学習指導資料』東京学芸大学附属高等学校大泉

『国際理解・帰国子女教育部会－自分を見つめ、他を認める子供を育てる』お茶の水女子大学附属小学校

『海外交流を通して生徒の自主的活動をすすめる研究』東京都千代田区立今川中学校

『国際理解教育－姉妹校との交流を通して』東京都東村山市立回田小学校

『豊かな心を育てる国際理解教育の推進』
東京都目黒区東山小学校

『国際理解教育の研究』東京都立八王子高陵高等学校

『同和教育の実践のために実践事例集』神奈川県教育委員会

『環境教育指導資料(中学校・高等学校編)』

『小学校生活指導資料指導計画の作成と学習指導』文部省

『開発教育に関する調査研究－諸外国における開発教育の現状と文献、学校における途上国・南北問題の学習の実態』(財)国際協力推進協会

『比較生活文化学会学会誌』第1～3号比較生活文化学会

『児童の権利条約INFORMATION KIT』(日本ユニセフ協会)

『ネパール・カトマンズ渓谷 救おう！われらの文化遺産』(ユネスコ・アジア

『すべて人は、：BORN FREE & EQUAL 世界人権宣言』写真：Jed Share

『地球と平和アクション・ブック』

『ありがとうございますアフリカ』チロンボ・ンゴイ Jr. (以上、ほんの木)

『新英語教育：特集／私の好きな教材』(三友社出版)

『教育科学社会教育』『授業研究』('91 4月～9月号) 明治図書

『日韓合同歴史教科書研究会研究報告書』日韓歴史教科書研究会

『ORAL ENGLISHの授業はどうあるべきか』茨城キリスト教短期大学、A.F.F.Boys

『開発教育授業構成の理論と展開－新しい国際理解教育をめざして』兵庫県立東灘高校 大津和子

○今、ERICでは…

【第2回ERICグローバルセミナーの開催】
1991年10月12日～11月4日

詳しい内容については同封のチラシ参照

10月5日には、本紙第6号でご紹介したラルフ・ペットマン氏の研修会も開催されます(要予約)。

ERIC International ERIC NEWSLETTER No.8 September 1991
国際理解教育・資料情報センター

〒114 東京都北区田端1-21-18 津田ビル1F 電話=03-5685-1177

このNewsletterの印刷・編集費用の一部は大竹財団からの後援です。

リサイクルを考えて、印刷用紙に再生紙を使用しています。